

33 鴨政雄 銀器大皿

一点

昭和七年（一九三二） 銀、鍛造
径三八・六 高五・八

銀板を鍛造で成形した大皿で、縁の部分をひれ形の連続模様
に切り透かし、見込みに彫りつけられた十字が印象的な作品。
昭和七年、第十三回帝展の出品作で、底裏に「1932 m.a.」の刻
銘がある。貞明皇后が軽井沢に滞在中、前田侯爵別邸に行啓の
折に栗を入れて献上されたとの伝来があり、その後、昭和二十
一年に貞明皇后より昭和天皇香淳皇后へ贈られた品。

大正末から昭和初期にかけて新しい工芸表現を目指す動きが
活発となり、この時期、幾つかの団体が結成されたが、その一
つに金工の革新を唱えて北原千鹿が主催した「工人社」がある。
作者の鴨政雄（一九〇六〜二〇〇〇）は東京美術学校在学中の昭和
二年、「工人社」創立より同人として加わっており、発表活動
を始めた出発時から、新しい表現を意識していた作家である。
鴨は香川県に生まれ、香川県立工芸学校を経て大正十四年に東
京美術学校に進み、清水南山や海野清に師事した。在学中の昭
和五年の第十一回帝展では初入選となり、以降出品を続け、戦
後は日展、昭和三十六年に結成された現代工芸美術家協会にも
参加して発表を続けた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections